

- 令和3年度より、高次脳機能障がい児支援について検討している。
- 高次脳機能障がいのある子どもは、リハビリテーションと学業との両立や、進級進学、友人関係について等、大人とは異なる困りごとを抱えることが多い。
- 家族は、十分な情報を得たり、同じ境遇の方の話を聞いたりする機会が少なく、孤立するケースもある。

## 1. 教員向け啓発について

高次脳機能障がい児支援充実のためには、学校・教員の理解が不可欠であるため、「高次脳機能障がい」という障がいがあること、既に周囲にもいるかもしれないことを知って頂くきっかけになるように、教員を対象として啓発が必要ではないか。

⇒今回いただいた意見をもとに、今後府としての取組みや施策を検討・実施する。

## 2. 家族交流会について

高次脳機能障がいで困りごとを抱える当事者・家族が、情報を入手したり、思いや体験談を共有したりすることができる機会の提供が必要ではないか。

⇒教員向け啓発に関して実施する施策も踏まえ令和6年度以降実施予定。